

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
三次市立十日市小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	3	3	3	3	3	3	18	3	21

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	6	3	5	15	
外国語	6	3	2	6	

授業時数 計 21 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
音楽	6	2	1.4	2.8	

授業時数 計 2.8 (b)

授業時数 合計 23.8 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 い組 (担任: A)	A	A	C	推進	B	推進	C	C	B	推進	A	A	A
6年 ろ組 (担任: B)	A	A	C	推進	B	B	C	C	B	推進	B	B	B
6年 は組 (担任: C)	A	A	C	推進	B	推進	C	C	B	推進	C	C	C

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

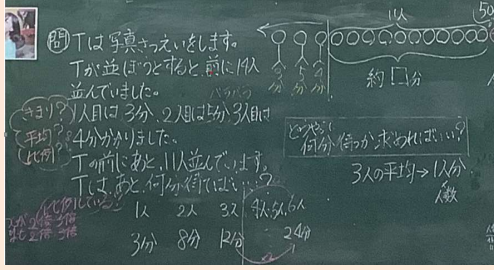
学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6—い	28	A	6—ろ	国語	4	10	9	19
			6—は	国語	4			
			6—ろ	書写	1			
			6—は	書写	1			
6—ろ	28	B	6—い	理科	3	11.2	11	22.2
			6—は	理科	3			
			6—い	体育	2.6			
			6—は	体育	2.6			
6—は	27	C	6—い	社会	3	12	10	22
			6—ろ	社会	3			
			6—い	図工	1.4			
			6—ろ	図工	1.4			
			6—い	家庭	1.6			
			6—ろ	家庭	1.6			

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉

① **授業の質の向上について**
○教科担任制だからこできる授業改善
 ・各クラスによって、反応や発言が異なるため、実態に応じて発問や展開を考慮することになり、授業力の向上を図ることができる。
 →例えば、算数に苦手意識をもつ児童が多い実態があるクラスでは、場面の理解を特に丁寧に行った。



【小学校第6学年算数科『算数のまとめ』における板書】

・児童が主体的に考え、語りたくなる場面がどこだったかを振り返り、その時間を多くもてるように発問や時間配分を工夫するようにした。

○教科担任制だからできる単元づくり
 ・推進員の専門性を生かして、算数科の授業ではどのクラスも同じように、活用問題に取り組めるようにした。

② **多面的な児童理解について**
○チームで指導
 ・学年全体で児童を見ることができると、全ての児童に関わり、チームで指導ができています。
 ・授業時間やそれ以外の場面で、複数の教職員が児童に対して声かけや肯定的評価を行っている。
 ・休憩時間や放課後に気付きをこまめに伝え合う。
 →児童の姿を共有することで、担任だけでなく、担任以外の教師も児童をほめることができる。
○児童の姿を共有
 ・目指す姿を共有する。(児童同士、教師同士、児童と教師)
 →学年の教師間における指導のブレが減少した。
 ・目指す姿が見られた場合の肯定的な声掛けが増加した。
○児童が気軽に話せる居場所づくり
 ・空き教室を利用して、授業の相談をしたり、教室に居づらい場合に一緒に過ごせたりできるようにした。

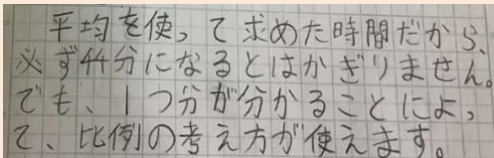
③ **小・中学校の円滑な接続について**
○中学校を見据えた課題の出し方
 ・教科ごとにまとめて課題を出し、課題の締め切り日を設定し、厳守を徹底した。



〈成果〉

① **〈児童の声〉**
 ・具体的に分からないことが聞ける。
 ・先生が得意なことを教えるので、より分かりやすくなった。
 ・教科にあった教え方で教えてくれる。
 ・嫌いだった教科が好きになった。
 ・個性のある先生がたくさんいて勉強が楽しい。

・ねらいを達成し、見方・考え方を働かせる児童の姿につながった。



【児童の振り返りの記述より】

② **〈児童の声〉**
 ・いろいろな先生と話せるようになった。
 ・頑張っていたらしっかりとほめてくれたり、あまり頑張っていないときは、注意をしてくれたりする。
〈生活アンケートにおける肯定的回答(1月実施)〉
 ・「自分の良さは周りの人から認められている」86.4%
 ・「自分にはいいところがある」95.1%
 →児童の自己肯定感が高い。

③ **〈児童の声〉**
 ・中学校での教科担任制で不安がなくなったり、いろいろな先生が分かりやすく教えてくれる。
 ・教科担任制に小学校から慣れることができ、安心できる。

④	教師の負担軽減について ○焦点を絞った教材研究 ・各教職員の担当教科数が減り、焦点を絞った教材研究を実施しており、ゆとりをもって授業に臨んでいる。 ○教師の特技を生かした行事の役割分担 ・行事を主で指導する担当を決め特技を發揮できるようにした。 (音楽担当, 体育担当, 劇担当等)
⑤	その他(基礎学力の向上について) ・新しい単元に入る前に既習の見方・考え方を共有する時間をとった。 ・大切だと思う見方・考え方を振り返りの視点として書かせることで意識させた。 ・空き教室を利用し、個別に学習できるようにした。



④	<教師の声> ・一つの授業に対する教材研究の時間が増えた。 ・担当教科について集中して探究できた。 ・役割を分担し、チームでの指導ができた。
⑤	・算数科の前期末テストにおける知識・技能70%以上の児童の割合75% 2学期末テスト 75%(77人中58人)

<課題>	
①	・同じ学年に同じ教科を担当する教員がないため、他教員と同じ教科の授業づくりについて話がづらい。 ・自分の担当する教科以外で児童がどれだけ理解しているかが分からないため、担任として懇談で伝えることの限界がある。 <児童の声> ・それぞれノートの書き方が違うから難しい。
①	教科横断的な学習に取り組むこと
②	年度始めでは、クラスの児童とのかかわりをもつ時間が少なく、学級担任が大切にしたいことが浸透するのに時間がかかる。



<対策>	
①	・学校全体で教科に分かれて「教材の分析シート」を作成した。→教材の特性(見方・考え方), 系統性の共有ができる。 ・担当教科以外で児童がどれだけ学習を理解しているかを把握するため、担任が宿題を確認する。→担任と教科担当と一緒にフォローする。 ・ノートの書き方については、教科や教材の特質に合わせて行うが、年度初めに教師の意図を伝えたり、児童と書きやすい書き方を共有したりしてから行うようにする。
①	教師がゴールを明確にして単元計画を立てる。同じ意識をもって学習に取り組めるよう、教員同士で早めにゴールや単元計画を共有する。そうすることで、それぞれの良さが發揮でき、児童によりよい学習ができるよう、協力できる。
②	授業を進めることを急がず、意図的に児童と対話する時間を多くとる。